

チャペル週報

No.7

2024.5.20～5.24

あなたがたは真理を知り、
真理はあなたがたを自由にする。

ヨハネによる福音書 8章 32節



山川記念館（西宮聖和キャンパス）

関西学院宗教センター



チャペル・スケジュール

時間:西宮上ヶ原キャンパス・西宮聖和キャンパス 10:30~11:00 神戸三田キャンパス 10:40~11:10
場所:各学部チャペル(ランバスチャペルアワーは西宮上ヶ原キャンパスランバス記念礼拝堂)

5月20日(月) 神 ペンテコステ礼拝 森本 典子(神学部専任講師)
人 木原 桂二(商学部宗教主事)
建 村瀬 義史(総合政策学部宗教主事)
短大 ダッドレーチャペル 白倉クラス

5月21日(火) 大学合同チャペル -建学の精神-
10:20~11:10 西宮上ヶ原キャンパス 中央講堂
「呻きから生まれる平和への奉仕」 中道 基夫(院長)
10:30~11:20 神戸三田キャンパス VI号館101教室
「挑戦する Mastery for Service」 土井 健司(副学長)
10:20~11:10 西宮聖和キャンパス メアリー・イザベラ・ランバスチャペル
「心に愛を」 今津屋 直子(副学長)

5月22日(水) 大学合同チャペル -建学の精神-
10:20~11:10 西宮上ヶ原キャンパス 中央講堂
「挑戦する Mastery for Service」 土井 健司(副学長)
10:30~11:20 神戸三田キャンパス VI号館101教室
「試練と共に」 橋本 秀樹(生命環境学部教授)
10:20~11:10 西宮聖和キャンパス メアリー・イザベラ・ランバスチャペル
「呻きから生まれる平和への奉仕」 中道 基夫(院長)

5月23日(木) 神 音楽チャペル 応援団総部吹奏楽部
文 Andreas Rusterholz(宗教主事)
社 大学とはどんなところか⑦ 奥村 隆(社会学部教授)
法 한국어로 된 찬송/韓国語でのチャペル 姜 一成(日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団西宮アガペー教会牧師)
経 建学の精神④ 廣瀬 規代志(日本キリスト教団 関西学院教会牧師)
商 木原 桂二(宗教主事)
人 市瀬 晶子(人間福祉学部准教授)
国 Chapel in English Christian M. Hermansen(宣教師、法学部教授)
総 白川 俊介(総合政策学部教授)
短大 Christian Triebel(宣教師、学長直属助教)

5月24日(金) ランバス 建学の精神③ 中道 基夫(院長)
神 山内 信子(関西学院短期大学保育科専任講師)
文 Chapel in English Andreas Rusterholz(宗教主事)
経 建学の精神⑤(最終回) 辻 学(広島大学大学院教授、啓明学院院長)
理・工・生環 千東 史和(西宮クロスロード教会牧師)

◇ランバス早天祈祷会 毎週金曜日 8:10~8:30 ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

5月24日(金) 聖霊降臨日(ペンテコステ)を迎えて 村瀬 義史(総合政策学部宗教主事)

Zoomでご参加希望の方は、宗教センター(shukyocenter@kwansei.ac.jp)へメールでお知らせください。

呻きから生まれる平和への奉仕

中道 基夫

関西学院を創設した W.R.ランバス宣教師は、中国で病院を設立し、長年、医療伝道に携わっていました。その実績から考えるならば、日本でも医療伝道を展開するのが順当な手段かと思いますが、1886年に日本に来て、全く新しい青少年教育を手がけることになりました。

ランバス宣教師は、1880年に上海でアヘン中毒治療所を開設しました。当時、中国はイギリスがもたらしたアヘンによって大きな健康被害を被り、イギリスによる中国の経済支配が進み、アヘン戦争をもたらしました。ランバス宣教師は、西洋人の貪欲な利益追求のために押しつけられたアヘンからの救いを求める中国人の訴えを座視することができず、アヘン中毒治療に取り組むことになったのです。そこで、ランバス宣教師が求めたのは、体の治療と魂の救いでありました。体と魂の救いが一体となって人間が救われるということを実践したのです。そこに中国人の呻きとその現状を痛ましく思うランバス宣教師の呻きがありました。

日本に来てランバス宣教師は日本の新しい時代の幕開けに出会いました。19世紀後半、明治維新を経て、日本には西洋から文化、思想、技術、学問が押し寄せてきました。それらは、日本を発展させるものであり、新しい社会の幕開けに必要なものでありました。しかし、ただ単にこれらのものが人間を幸せにするのではないという呻きをランバス宣教師は持っていました。そして、日本各地をめぐり、いったい日本人が何を求め、どんな呻きを持っているのかを知ろうとしたのです。

その中で、日本の新しい時代を担う青少年が、知性だけではなく、また魂だけではなく全人的に成長することが重要な課題であると考えたのです。洪水のように押し寄せてくる西洋文化を受け身的に受け入れるのではなく、その実態を知り、そして自ら判断することができるようにキリスト教主義による「知徳兼備の教育」を授けること、人間の心身に奉仕することを建学の精神として関西学院を開学いたしました。

関西学院の建学の精神は、現代の私たちを、人々の呻きに耳を傾け、平和を創りだすことへと招いています。

(院長)

挑戦する Mastery for Service

土井 健司

1915年の『商光』に掲載されたベーツ先生の「Our College Motto」をあらためて読み直してみると、独特の人間観がそのベースにあることに気づいた。そこでは、いわば二人の「私」と、これらの「私」がどのように結びつくべきかが語られている。

最初の「私」は、いわば英語の「I」のことであり、主体としての「私」である。この「私」は自由を享受し、さまざまな力を獲得しようとする。「楽器ができる」、「英語が話せる」、「多くの商品が売ることが出来る」等など。「できる」という感覚は私たちが生きていくうえでとても大切なものだが、Mastery とはこの「私」に関することであろう。

もう一人の「私」は社会のなかにあり、英語で me と表現されるようなものであって、社会のなかでさまざまな役割、地位、立場の「私」のこと。この「私」は社会の一員として社会のために働き、そうして一人前の「私」となる。つまり Service とは社会のなかにいる「私」の働きとなる。学校での学びを通してさまざまに「できる」ようになった「私」が、社会にでて、社会人としての「私」になるわけである。

ところで Mastery と Service とは本来は相容れない言葉であろう。伝統的にマスターは主人であり、サービスは奴隷が行うこと。こうした相容れないものを結びつける逆転の発想がキリスト教にはある。十字架につけられた神、弱さにおける強さ、愚かさこそ賢い、奴隷にして自由などはよく知られている。相容れないものを結びつけるところは挑戦的で、そこには緊張感がみなぎっている。最初の「私」だけならワガママとなり、Service する「私」だけならただの弱虫だという。だから両方の「私」の結びつきが大事だし、さらにその方向性が大事となる。

たとえば社会で稼いだお金を自分のためにどう用いようかと考えることがある。自分のプライベートを大事にして充実する、そのために働くという人は多い。社会人としての「私」が主体としての「私」に仕え、自己を満たす。しかし「マスタリー・フォア・サービス」はこれとはちょっと違う。最後の段落でベーツ先生がおっしゃっているのはこのことだと思う。社会人としての「私」は結局自分に向かうのではなく、人間性など、いっそう高次の目的に向かわねばならない、だからこそフォア・サービスなのである。

(副学長)

心に愛を

今津屋 直子

関西学院には入学式・卒業式の式典や日々のチャペルアワーに、繰り返し読まれる聖句や歌われている讃美歌があります。「心に愛を」という讃美歌（『讃美歌21』88番）もその一つです。本学の礼拝では派遣として歌われています。その詩「心に愛を、豊かに満たし、日ごとのわざにつかかわしたまえ」はチャールズ・ウェスレーにより作詞されました。チャールズは兄のジョン・ウェスレーと共にメソヂスト運動の指導者であり、讃美歌作者としても知られています。彼は生涯を通して6500余の讃美歌を作っています。

数多い讃美歌の中で、関西学院ではなぜこの歌が選ばれたのでしょうか。残念ながら、その経緯や理由を私は聴く機会がなく、想像の範囲を超えられませんが、この讃美歌が歌い継がれている理由を考えてみました。

創立者のランバス先生はアメリカ・南メソヂスト監督教会、第4代院長のベーツ先生はカナダ・メソヂスト教会の各々宣教師として日本に派遣されました。一つ目の理由にメソヂスト教会と関西学院の関係性が十分に考えられます。もう一つは、この讃美歌が、本学の礼拝で歌われることを想定し作られたとも思えるような、本学のスクールモットーを応援するような詩にあると思います。学生の皆さんは、チャペルや授業で「Mastery for Service」の精神について話を聴く機会が度々あります。「勉学に励み、知識・技能をよく修め、自らに与えられた才能を存分に発揮して人格の完成に努める。それは隣人・社会・世界のために奉仕し人類の福祉に貢献することを究極の目的とする」。直ちに得心とはいかないかもしれませんが、合わせて「心に愛を」を歌うと、背中を押してもらっているような安心感と溢れる気力を感じます。

ウェスレー兄弟は、刑務所や職場等の教会以外にも出かけて説教をし、皆で讃美歌を歌うことを大切にしていました。讃美歌は、「平易な美しい詩形にのせて、聖書の言葉が縦横無尽に歌われ」「心を奮い立たせるような歌」であったようです。「心に愛を」にも讃美する者を優しく導き、励ます、そんな力を感じます。ウェスレー兄弟のねらいは関西学院においてもその効果を発揮しているのかもしれませんが。

（副学長）

試練と共に

橋本 秀樹

コリントの信徒への第一の手紙 10 章 13 節に「神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えてくださいます。」という言葉があります。今回の春季大学キリスト教週間大学合同チャペルでは、聖書のこの御言葉を通して、関西学院の建学の精神である Mastery for Service について共に考えてみたいと思います。

上述の聖書の御言葉には、試練は避けられないものであり、むしろ耐えられるものであるという教えが示されています。神は人々に耐えられない試練を与えず、耐えられる試練のみを与えるとされ、さらには試練を通じて成長する機会を与えると述べられています。筆者は、自らの人生経験を通してこの教えを理解しました。大学受験時に第一志望校に不合格となり、それに伴うショックや悩みを経験しました。しかし、家族や信念に支えられて関西学院大学に進学し、そこでキリスト教の教えに触れる機会を得ました。特に、『誰でもキリストにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去り、まさに新しいものが生じたのです。(コリントの信徒への第二の手紙 5 章 17 節)』と言う聖句が強いインスピレーションを与えてくれました。その後も、卒業研究や研究者としての道を歩む中で、さまざまな試練に直面しましたが、信念を貫き、自らの成長や目標達成に向けて努力しました。

また、筆者は職場での試練も経験しました。大学での上司との関係が冷え切り、不当な扱いを受けたこともありました。しかし、家族や同僚からの励ましを受けて、試練に立ち向かい、正義を貫くことを決意しました。その結果、新たな職場やチャンスを得ることができました。最終的には、関西学院大学に帰還し、新たな学科の設立や指導者としての役割を果たすことができるようになったのです。

これらの経験を通じて、試練に直面する際には、その後の成果や喜びを見据えることの重要性を理解しました。試練は成長や学びの機会であり、それを受け入れ、乗り越えることで、自らの力や信念を強化することができるのです。つまり、試練は人生において避けられないものであり、神の導きの下で乗り越えられるものであるということです。この事を覚えて、Mastery for Service (奉仕のための練達) をこれからも実践していきたいと強く願っています。

(生命環境学部教授、宗教活動委員長)

●院長室から発信！ビデオメッセージ「風に思う」配信のご案内

関西学院の基盤となる基督教の言葉やシンボル、関西学院の精神について語るメッセージビデオです。基督教主義教育のエッセンスに触れるとともに、皆さまの心の糧としてご視聴ください。(月2回程度更新されます)



<https://ef.kwansei.ac.jp/about/kazeniomou> 「風に思う」関西学院 院長室からのメッセージ(HP)

●チャペルオルガニスト募集

チャペルオルガニストの2次募集をします。5月25日(土)にオーディションを行います。

採用されますとパイプオルガンで個人レッスン(有料)を受けることができ、チャペルの奏樂をはじめ、発表会、研修会、コンサートなどを通して、教会音楽を中心とした幅広い知識、技能を身につけることができます。

チャペルオルガニストについて(応募資格・条件等)は、右記 QR コードをご覧ください。

応募期間:5月13日(月)~5月22日(水)16:50

問い合わせ・資料請求:宗教センター オルガニスト募集担当

電話:0798-54-6018 E-mail:organist@kwansei.ac.jp



●大学基督教週間 宣教師企画

NUCチャペル・ツアー

西宮上ヶ原キャンパスにあるチャペルを見て回ろう!

西宮上ヶ原キャンパスにある9つのチャペルを回りながらビーズを集めて祈りのブレスレットを作ります。様々なチャペルの素敵な空間を味わいましょう!

日 時:5月24日(金)13:20~15:00

対 象:新生及び興味ある学生

集合場所:ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原キャンパス)

※参加したい方は、右の QR コードにてご申請ください。(先着20名)



映画上映会

上映作品:『神々と男たち』(2010年、フランス)

日 時:5月24日(金)17:00~19:30

場 所:図書館ホール(西宮上ヶ原キャンパス図書館の地下1階)

参加費:無料(どなたでもどうぞお越しください)

主 催:宗教センター

協 力:宗教総部、聖書研究会“ポプラ”

※参加したい方は、右の QR コードにてご申請ください。(先着90名)



●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急大阪梅田駅から徒歩すぐ、アプローズタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、大学院授業期間中の月1回チャペルアワーを実施しています。場所は1405教室です。どなたでもご自由にご参加ください。

6月13日(木)17:50~18:10 井上 智(宗教センター宗教主事)

●ランバスチャペル・ヌーンコンサート

西宮上ヶ原キャンパスの正門に入って右手に見えるチャペル「ランバス記念礼拝堂」では、礼拝はもちろん、コンサートや式典、講演会、卒業生の結婚式などが行われています。4月から関学を代表する音楽団体による恒例のヌーンコンサートが開かれます。お昼休みのひととき、どうぞ耳を傾けてみてください。

6月14日(金)関西学院大学混声合唱団エゴラド

6月24日(月)関西学院ハンドベルクワイア

7月 1日(月)関西学院バロックアンサンブル

7月 4日(木)関西学院聖歌隊

7月 8日(月)関西学院交響楽団

いずれも12:45~13:15 <入場無料>

場 所:ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原キャンパス)

主 催:宗教センター・宗教音楽委員会

●関西学院会館ベーツチャペル日曜礼拝

授業期間中の第2・第4日曜日(原則)の10:00~11:00に関西学院会館ベーツチャペルでは日曜礼拝を行っています。どなたでも(クリスチャンでなくとも)ご参加できますのでどうぞお越しください。

5月26日(日)10:00~11:00

◆CD・DVDライブラリー利用について

吉岡記念館事務室宗教センターには、教会音楽、キリスト教に関するCDやDVDを備えています。本学学生及び教職員(学生証または身分証明書必要)であればどなたでも利用できますので、希望者は事務室までお越しください。

◆使用済み切手収集にご協力ください

本学では「日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)切手部」の活動に協力し、使用済み切手の収集をしています。通常切手も対象としていますので、どうぞ吉岡記念館事務室へお届けください。
<郵送先>

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155 関西学院吉岡記念館事務室宗教センター宛

◆盲導犬育成のためご協力をお願いします

関西学院宗教活動委員会は、目の不自由な方々の社会参加促進を願い、社会福祉法人「日本ライトハウス」の募金活動に協力しています。吉岡記念館事務室はじめ各学部カウンターに募金箱を用意しておりますので皆さまの温かいご協力をお願いいたします。